

13:30

実行委員長 あいさつ ～河西邦人(北海道コミュニティビジネス・ソーシャルビジネス協議会会長/札幌学院大学教授)～

会場 芙蓉 (8F)

13:40
～
14:40

知的障害者に導かれた企業経営と国への期待 ～「日本でいちばん大切にしたい会社」からの提言～



日本理化学工業株式会社
会長
大山 泰弘氏

1932年東京生まれ。日本理化学工業株式会社社長。日本理化学工業は、1937年に父・妻成氏が設立したチョーク製造会社。中央大学法学部卒業後、病身の父の後を継ぐため同社に入社。1974年、社長に就任。2008年から現職。1960年に初めて知的障害者を雇用して以来、一貫して障害者雇用を推進してきた。1975年には、川崎市に日本初の知的障害者多数雇用モデル工場を建設。現在、74人の社員のうち55人が知的障害者(障害者雇用割合約7割)。製造ラインをほぼ100%知的障害者のみで稼働できるよう、工程にさまざまな工夫を凝らしている。こうした経営が評価され、2009年、渋沢栄一賞を受賞した。

会場 芙蓉 (8F)

機関

EPO北海道

札幌市

NPO法人 北海道NPOサポートセンター
(内閣府地域社会雇用創造事業)

EZO Biz
(はまなす財団・北海道経済産業局委託事業)

北海道

会場

梅 (7F)

飛鳥 (7F)

竹 (7F)

高砂 (8F)

弥生 (8F)

15:00
～
15:40



地域をつなぐ自転車野菜行商(札幌) 「チャリDEマルシェ」の挑戦!

北海道大学大学院農学院修士課程1年
滝沢 啓

自転車の後ろに野菜を積んで街を行商しています。「今時なぜ?」という声も聞こえる昔ながらの行商は、現代の埋もれたニーズと地域社会の抱える課題や可能性を教えてくださいました。野菜販売ビジネスを通して生産者と消費者をつなぎ、地域社会をつなぐ、「チャリDEマルシェ」プロジェクト、そのモデル試験から得られたものとこれからの可能性について、ご紹介いたします。

北海道大学グローバルCOEプログラムでは、「大学生」だからこそできることがある!をキーワードとして、課題解決力を育てるプログラムを行っています。その中の一環として「生産者と消費者をつなぐ」をテーマに、石狩の野菜を札幌へ届ける「チャリDEマルシェ」プロジェクトを実施しました。地域の中で「なかなか試せない」ことを「やってみる」が私たちの課題解決のアプローチです。



事業には資金が必要! ～企画提案のためのノウハウ～

NPO法人 人まち育て I & I
理事長 坂本 純科
NPO法人 ねおす
理事 荒井 一洋

行政においても公募プロポーザルが多くなってきています。選考されるためにはコツも必要です。22年度札幌市の緊急雇用事業を受託した団体が秘訣をお伝えします。

I & I: 社会教育やまちづくり、環境保全に関する情報提供や相談、人材育成等の支援プログラムの提供を行っています。ねおす: 子どもから大人までを対象に、自然体験活動、環境学習に関する事業を行い、持続可能な地域づくりに貢献することを目的としています。

I & I <http://ii.greenwebs.net/>
ねおす <http://www.neos.gr.jp/>



外国の成功事例に学ぶ 社会起業

北海学園大学法学部教授
北海道NPOバンク
副理事長 樽見 弘紀

2009年9月～2010年8月、米国ドミニカン・カレッジ客員教授としてニューヨークに滞在しました。海外での社会企業家たちはどんな活動をしているのか、その成功事例について最新事情をお届けします。ここでの真テーマは「社会起業狂騒に休止符を」。何が何でも起業で立たねば・・・という強迫観念から逃れ、たおやかに、ゆるやかに、軽やかに起業する海外の「so-so good (まあまあ成功) 事例」を紹介します。

樽見弘紀研究室 <http://hirotarumi.jp/>
北海道NPOバンク <http://npobank.dosanko.org/>



地元企業・商店街と 障がい者団体との 連携による地域活性化

NPO法人 日本障害者・高齢者生活支援機構
(JLED)
理事長 能登 正勝

地元企業とネットワークを構築して地域活性化を進めており、その取り組みや課題についてお伝えします。また、中島町商店街振興組合との連携事業「中島れんばい横丁」の実施内容とそれによる商店街への影響、昨年12月にオープンした「中島ふれあいセンター」についてもご紹介いたします。

2003年に設立、2007年にNPO法人化。障がい者の就労の場を提供するため、様々な障がい者福祉サービス事業を手がけています。中島町商店街振興組合に事務所を構え、商店街と連携した事業「中島れんばい横丁」等を実施。地元企業や住民との「win-winの関係づくり」を重視したコミュニティビジネスに取り組んでいます。



西神楽のまちづくりと コミュニティビジネス

NPO法人 グラウンドワーク西神楽
理事 谷川 良一

旭川市の西神楽地区に特化したコミュニティビジネスについて、道の事業などを活用した冬季集住・二地域居住による高齢者の生活支援事業や、事業実施に必要な地域住民のネットワーク化やコーディネーターとしての役割についてお話しします。

1994年、西神楽のまちづくりを考えるために設立した「西神楽地域づくり研究会」が前身。2001年にNPO法人化しました。フィールドを「西神楽地区」に特化し、地元の高齢者が自ら建設したパークゴルフ場の運営、高齢者の冬場の生活支援、農産物直売所の運営等々多様なコミュニティビジネスを展開しています。

休憩時間・会場移動

休憩時間・会場移動

15:55
～
16:35



グローバル化に対応した 会議やイベントの環境配慮

NPO法人 コンベンション札幌ネットワーク
理事長 藤田 靖

北海道河内湖サミットを契機に始まったイベントや会議の環境配慮。単に、リサイクルや省エネを推進するだけでなく、CO2の見える化や森林活動を通してCO2の相殺を行う地域貢献型カーボンオフセット事業など、海外の事例もふまえて、持続可能な社会づくりを視野に入れた活動をご紹介します。

MICE産業(MICEとは、Meeting、Incentive、Convention、Event&Exhibitionの頭文字)の振興・発展を目的に企業約110社がコンベンションビューローと連携して活動しています。国内や海外の会議や学会、イベントの誘致・開催支援など多岐にわたります。

<http://www.sapporo-convention.net/>



事業には資金が必要! ～企画提案のためのノウハウ～

NPO法人 コンカリーニョ
理事長 斎藤 千鶴
NPO法人 モエレ沼公園の活用を考える会
宮本 洋

行政においても公募プロポーザルが多くなってきています。選考されるためにはコツも必要です。22年度札幌市の緊急雇用事業を受託した団体が秘訣をお伝えします。

コンカリ: 志願によるアート・コミュニティと地域による地域コミュニティをつむぐことによる地域活性化、世代間交流促進の活動に取り組んでいます。モエレ: モエレ沼公園の活用や運営管理に市民が自発的に加わり、市民と行政の新しい協働と協働のまちづくりのモデルケースをつくることを目的に活動しています。

コンカリ <http://www.concarino.or.jp/>
モエレ <http://www.moerefan.com/>



チャレンジド支援の10年 ～そしてこれから

NPO法人 札幌チャレンジド
佐藤 美由紀

事務所なし、事務局員も居ない...そんなスタートから10年。現在およそ延べ3000名のチャレンジドがパソコンを習い、およそ35名のチャレンジドが仕事に就いています。私たちがチャレンジドと共に歩んだこれまでの活動と、これからの活動についてお話しします。

障がいを持つ人(チャレンジドと呼ぶ)にパソコンやインターネットを教え、社会参加と就労を支援しています。

<http://s-challenged.jp/>



「ハネモノ」を「カネモノ」に ～商が主導する地域活性化～

かわっさむファクトリー
代表取締役専務
和寒町商工会会長 塚崎 正

日本一のカボチャの生産地である和寒町。カボチャのハネモノを有効活用したいという農家のニーズに応じて設立された同社は、商工会など地元を巻き込んで地域の活性化に活躍しています。また、かぼちゃペーストの商品開発・販路開拓に向けた取り組みや、地元における雇用創出効果、今後の方向性についてもお話しします。

かわっさむファクトリーは、商工会役員・農家・一般消費者の出資を得て加工・販売会社として設立。国の制度活用や町の支援を受けて市場調査を行い、生産工場を設立しました。業務用かぼちゃペーストで、ホテル、洋菓子メーカー等の販路を開拓し、町内の雇用を創出しています。



「食」を通じた 高齢者の生活支援と 生きがいづくり

港町工房
代表 中村 幸裕

道の健康長寿対応型サービス創出事業の一環として取り組んでいる買い物困難地域の高齢者世帯を対象とした宅配事業や、高齢者の知恵・経験を生かしたヘルシーメニュー開発事業等の内容と今後の展望についてご紹介いたします。

訓路市において水産食品製造業を営む傍ら、高齢化が進む入船地区の地域活性化を目指し、「くしる入船4丁目プロジェクト」を実施。地元の魚や野菜をつかったメニューを提供する「かもめ食堂」や、月2回、訓路管内の生産者が水産品や農産品を持ち寄り、自ら販売する「かもめ市」を運営しています。

<http://minatomachi-k.shop-pro.jp/>

休憩時間・会場移動

休憩時間・会場移動

16:50
～
17:30



サイクルシェアリング 『ポロクル』 ...新しい公共へのチャレンジ

側ドコン サイクルシェアリング推進室
室長 澤 充隆

目指すのは『札幌の元気!』。札幌市都心部で昨年6月から4ヶ月間実施したサイクルシェアリング実証実験を企画・プロデュースした経緯と、今後の取り組みについてお話しします。

側ドコンは、時代のニーズを積極的に汲み取り、豊かな発想で独創性、総合性を備えた技術を提案し、「信頼の“人と技術”で豊かな人間環境の創造に貢献する」という新たな経営理念のもと、人と自然が共生できる快適な生活環境づくりを目指しています。



新しい公共の 担い手発掘事業

NPO法人 札幌ピズカフェ
理事 石井 宏和
綾 裕介

新しい公共の担い手としてNPOへの期待が高まっています。札幌市の委託事業「新しい公共の担い手発掘事業」で取り組んだ、NPOへのヒアリングの結果やNPOと企業とのマッチングについて報告します。

ピズカフェ: New Business from New Styleをスローガンに、新産業の創出と起業支援、次世代の人材育成に取り組んでいます。



児童デイサービス ～いかに利用者のニーズに応えるか

NPO法人
子どもサポートどろんこクラブ
代表 金城 朝子

人と関わるのが苦手、集団活動が苦手な子ども達のサポートを始めて10年目。支援費制度、自立支援法、次々と福祉制度が変わる中で子ども達のニーズにどう応えてきたかの経緯をお話します。

発達のアンバランスや障がいなどで集団になじみにくい子ども達、困り感のある子ども達に対し、学習支援・フリースクール、学外活動のサポートなど、あらゆる活動で全ての子ども達が地域で健やかにたくましく育っていく為の支援を行っています。

<http://www3.ocn.ne.jp/~doronko/>



何もないじゃない、 つくればいいじゃん!

～赤平よりみちの駅から見えてきた田舎もんか～
まー美樹
代表取締役 植村 真美

赤平市には、道の駅がなく、なければ自分たちで作ればいいじゃん!と、民間企業で立ち上げた「赤平よりみちの駅 幌間SOUKO」。地元の新鮮野菜が並ぶ直売所、企業の商品紹介、赤平の情報発信、特産品の提案、お土産品の製造など手掛けて、今年で7年目を迎えます。最初は、思うようなサービスが出来なかったけれど、段々形になってきました。地元のおかあさんたちと日々奮闘中です。是非、赤平よりみちしてってね～!

まー美樹は、地元の建設会社である植村建設が地域活性化に向けた新規事業を担う会社として設立。民間主導の道の駅の運営、農産物直売、農産加工品の企画開発・販売事業などを実施しています。

<http://www.ja-girl.com/>



稚内のまちを 活性化するための コミュニティビジネス創出

街にいき隊
代表 尾崎 篤志

内閣府地域社会雇用創造事業で採択となった「稚内あきない事業」(空き店舗、空き住宅、空き地、空き屋上の活用)や道の事業を活用し、同団体メンバーが取り組んでいるヘルスツーリズムの事業内容と成果についてご紹介いたします。

疲弊する駅前の中央商店街を元気にしたいとの想いから、同商店街の若手経営者等が中心となり結成。当初はイベント開催を中心に活動していましたが、地域活性化を効果的な事業の創出に向け、同団体として起業を目指すとともに、同メンバーが道の事業を活用し、稚内初の「ヘルスツーリズム事業」を開始するなど、コミュニティビジネス創出のプラットホーム的役割を果たしつつあります。

休憩時間・会場移動

休憩時間・会場移動

17:45
～
18:45

交流会 (会費:1,000円・参加自由)

会場 高砂 (8F)